

平成30年度 学校経営計画に対する最終評価報告書

石川県立七尾特別支援学校珠洲分校

重点目標	具体的取組	担当	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果・課題）及び次年度の扱い（改善策等）	最終評価
1 キャリア教育の推進と進路指導の充実	① 個別的教育支援計画の活用の見直しを通して、より効果的なキャリア教育・進路指導の充実を図る。	キャリア支援課 進路指導	保護者からの学校評価アンケートに「よくあてはまる」「ややあてはまる」を合わせた割合が A：90%以上 B：80%～90%未満 C：70%～80%未満 D：70%未満	学校評価（最終評価）アンケートの評価項目「個別的教育支援計画」において、「よくあてはまる」59%「ややあてはまる」32%で合わせた割合が91%であった。	昨年度の学校評価アンケート、評価項目「個別的教育支援計画」において、「子どもの能力を伸ばすための支援計画となっている」に対して、厳しい評価の保護者が複数存在していた。そこで、今年度は教育課程の見直しや保護者との連携を密に支援計画を作成し、具体的な取組みを進め、保護者の満足度も向上してきた。しかし、高等部保護者の中には、教科の学習時間等に疑問をもつケースもあり個々に応じた教育課程となるように、次年度にむけて検討する必要がある。	A
学校関係者評価委員会の評価		・スマートフォンなどを使った授業を取り入れてもらいたい。				
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策		・現在学校ではワイファイ機能は使えないが、パソコンでインターネットを利用して学習を展開していきたい。				

重点目標	具体的取組	担当	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果・課題）及び次年度の扱い（改善策等）	最終評価
2 地域との繋が	① 地域と関わる交流活動を推進し、ホームページ等で広報活動を行う。	総務課	地域と関わる交流活動の実施回数が学校全体で A：20回以上 B：16～19回 C：11～15回 D：10回以下	公民館との交流やふるさと里海学習で、地域の海の生き物について学習した。 また、高等部では石川県耐寒継走大会に参加した。小中高で年間を通して20回地域と交流ができた。	本校の児童生徒の実態や取り組みを知ってもらえるように地域と関わる学習や活動の回数を増やすことを目標に取り組みを進め、設定した回数を達成することはできた。 次年度に向けて、回数のみならず、交流が深まる内容を検討していきたい。	A
	② 地域の特別支援学級の担任等に対して、授業公開や教材教具などを紹介したり、研修会を開催したりしてそのニーズに応じた支援を行う。	キャリア支援課 自立支援	真似たり参考にしたりして何らかの実践を行った教員の割合が A：90%以上 B：80%～90%未満 C：70%～80%未満 D：70%未満	アンケートの結果は、参加した内容が「とても役に立った」「役に立った」と全員が回答した。しかし、参考にし実際に取り組んだ割合は76%だった。	6月と9月に合同学習会、8月に合同研修会を開催した。12月には県の研修センターから指導主事を講師に招き研修会を行った。地域の特別支援学校の担任等の参加はあまり多くなく延べ15名であった。来年度は市町の学校教育研究会との連携を図り、センター的機能を発揮できるようにしたい。	C
学校関係者評価委員会の評価		・内容の深まりを求めることも必要だが、回数を多く重ねることでより良い交流になると思う。				
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策		・各学部での交流の回数を重ねることで、児童生徒が見通しを持って主体的な交流になるように取り組んでいきたい。				

重点目標	具体的取組	担当	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果・課題）及び次年度の扱い（改善策等）	最終評価
3 授業力の向上	① 学部を超えて授業を参観し、参観者によるコメントをもとに小・中・高が連携した授業改善に取り組む。 (年3回以上)	教務課	他学部の授業や参観者のアドバイスが、「役立つ」、「まあまあ役立つ」をと答えた教職員の割合が A：90%以上 B：80%～90%未満 C：70%～80%未満 D：70%未満	アンケートの結果は、「役立つ」が59%、「まあまあ役立つ」が41%であり、合わせて100%であった。	全員が他学部の授業を見ることがよいと感じている。今年度、互見の予告を簡略化したり、互見シートの見直しを行い、より参観しやすい状況をつくることができた。また、互見期間を設けることで意識付けすることもできた。しかし、互見期間が行事と重なり苦労したという意見や時間割の関係で見られる授業が固定されるという意見もあり来年度改善したい。	A
学校関係者評価委員会の評価			・他の教師の授業を見ることは大切であり、今後も続けて欲しい。			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策			・互見授業がお互いの授業改善に役立つという意識を持つ職員が大多数だったので、来年度は互見期間が行事と重ならないように調整し、より参観しやすい環境作りに努めていきたい。			

重点目標	具体的取組	担当	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果・課題）及び次年度の扱い（改善策等）	最終評価
4 安心・安全な学校づくりの	① 重複生徒を対象にした避難方法を避難訓練とは別に実施して取り組む。非常時に緊急脱出できるよう避難用滑り台を体験する。	生活支援課 生徒指導	重複生徒を対象にした避難方法体験及び滑り台避難体験が役立ったと判断する職員の割合が A：90%以上 B：80%～90%未満 C：70%～80%未満 D：70%未満	重複障害のある生徒を対象にした避難方法体験及び滑り台避難体験が役立ったと判断する職員の割合が87%であった。	重複障害がある生徒を担架で避難させたこと、避難場所を正面玄関から運動場へ変更したことが現実に即していると評価された。また、重複障害がある生徒を訓練で担架に乗せるのではなく、別日程で担架の使い方を教員が学習するほうが、児童生徒に危険がないという意見もあったので検討していきたい。避難訓練全般に関しては、全職員の共通理解のもと目的意識をもって学校の安全管理ができるよう努めたい。	B
学校関係者評価委員会の評価			・大規模災害が起きた時に、保護への受け渡し体制を整えて欲しい。			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策			・保護者への引き渡しカードは作成してあるが、実際の引き渡し訓練はできていないので来年度検討していく。			

重点目標	具体的取組	担当	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果・課題）及び次年度の扱い（改善策等）	最終評価
5 業務改善に向けた意識改革	① 業務改善シートで効率的な業務の実践に取り組む。	全教員	各自が業務改善シートを作成する。前・後期毎に判断し、年間を平均した結果で、「業務を改善することができた」、「まあまあ改善することができた」と答えた教職員の割合が A 80%以上 B 70%～80%未満 C 60%～70%未満 D 60%未満	後期(10月～2月)で「業務を改善することができた」、「まあまあ改善することができた」と答えた教職員の割合が70%であった。前期の割合78%と平均すると年間で75%の割合となった。	前期に比べ後期は「業務を改善することができた」、「まあまあ改善することができた」と答えた教職員の割合が減少したが、これは、前期に改善した後、それに加えて改善を図ることが難しかったことが考えられる。今年度、改善を図った業務を基にして、さらなる効率的な業務の推進を目指していきたい。	B
学校関係者評価委員会の評価			・今後も効率的な業務に心がけ、子ども達と過ごす時間を大切にしてきめ細かな対応をして欲しい。			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策			・次年度も業務改善を図り、時間的ゆとりの中で業務ができるように努力していきたい。			

平成30年度 学校経営計画に対する最終評価報告書

石川県立七尾特別支援学校珠洲分校